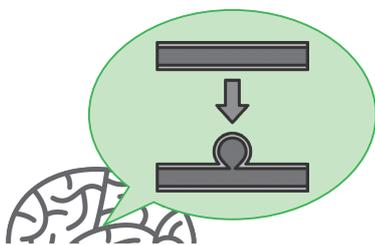
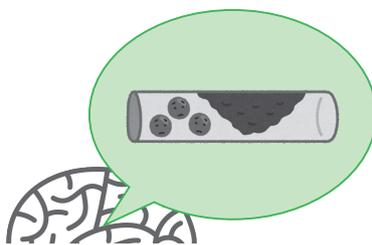


脳の病気は突然発症することが多く、命にかかわったり後遺症となるなど、人生を大きく左右する病気です。脳の病気はまだ関係ない、検査するのは年を取ってから、と思っている方もいるかもしれませんが、年齢に関係なく20代・30代でも脳の病気が発見されることがありますので、一度脳ドックの受診を検討してみてもいいかもしれません。

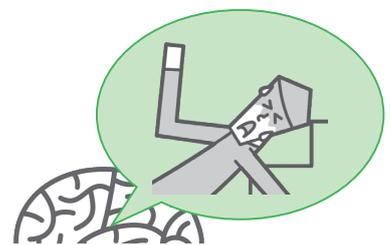
### ○20代・30代でも危険な脳の状態とは



①生まれつき脳の血管に変形や脳動脈瘤（脳の血管のコブ）があり、詰まりや破れがおきやすい



②生まれつき血液中に血の塊ができやすい体質で、詰まりやすい



③けがや何らかの刺激が影響して、脳の血管が裂けやすい

### ○若い世代もめずらしくない「くも膜下出血」

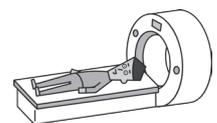
くも膜下出血とは、簡単に言うと脳の血管が破れて頭の中で出血がおこる病気で、若くても発症する病気です。くも膜下出血の原因として最も多いのが脳動脈瘤の破裂です。ほとんどの脳動脈瘤は遺伝によるものや、生まれつきの異常が原因と考えられていますが、未だに解明されていない部分もあります。

いずれにしても、早めに脳動脈瘤の有無を確認しておくことで破裂を防ぐことができ、くも膜下出血を防ぐことにつながります。



### ○脳ドックでは

MRI検査（脳の断層撮影）、MRA検査（脳や首の血管撮影）を中心とした検査をもとに、脳の状態を撮影して脳の病気の兆候やリスクを調べます。



#### MRI検査でわかること

脳の状態～脳の腫瘍や萎縮の程度、自覚症状がなくおきていた脳梗塞や脳出血の有無

#### MRA検査でわかること

脳や首の血管の状態～血管が破裂しそうなコブや動脈硬化の有無、血管の縮みや血の流れが悪い箇所の有無

### ○町では年2回、脳ドック検診を行っています

町では年間2回、各35人ずつ、脳ドック検診受診料助成の申込みを受け付けています。

申込み条件などの詳細は、15頁に掲載していますのでご覧ください。

